

国際交流員マシアスのコラム

ウィリアム・テル (Wilhelm Tell)



ヨーロッパの伝説

石橋にグリムの館がありますが、グリム童話は下野市のみならず全国的に有名だと思います。しかし、ヨーロッパにはグリム童話のほかにもおもしろい物語がたくさんあります。

今回は、ヨーロッパで有名な一つの伝説についてご紹介したいと思います。

昔々、14世紀ごろ、ヨーロッパの真ん中に神聖ローマ帝国という大きな国がありました。その帝国は多くの小さい国々の集まりであり、現在のドイツやオーストリア、スイスもその帝国の一部でした。その時代は今の平和なヨーロッパと違い、日本の戦国時代と同じように戦争が多く行われ、国の領土がよく変わりました。その反動で、今は永世中立国となっているスイスの独立的な性格が生まれたと言われています。その象徴として、ウィリアム・テルというスイス人の伝説が今でも語り継がれています。

2本の矢

テルが住んでいた場所の支配者であるゲスラーという人は、村の広

場の真ん中に長い棒を打ち立てると、その上に一つの帽子をかけ、その前を通る人は必ず帽子に向かってお辞儀をするように村の人に命令しました。しかし、強い心を持っていたテルはある日、息子と一緒にお辞儀をしないで帽子の前を通り、それを見たゲスラーはテルを捕まえてしまいました。そしてゲスラーは、息子の頭の上に乗せたリングを矢で撃ち落とすことができたなら解放することをテルに約束しました。テルは木の下に立たせた息子の頭上にリングを乗せると、二本の矢を取って見事にリングの真ん中を撃ち抜きました。その後でゲスラーが、なぜ矢を二本も取ったとテルに聞きました。すると

テルは、もし一本目を外して息子を死なせたら、残りの一本であなたを射抜くつもりでしたと答えました。ゲスラーはその言葉に怒り、テルを捕虜にし、牢屋に入れてしまいました。

しかし、テルはうまく逃げ出し、ゲスラーについてもっとひどい乱暴な話を聞いたので、ゲスラーを打ち殺してしまいました。このことが人々を鼓舞し、スイスの独立に結び

付いたと伝えられています。

この物語はドイツでフリードリヒ・フォン・シラーの劇として、ドイツの小学生なら誰でも見たことがあるくらい有名です。私も小学生の時にこの物語を読みました。その時は何を伝えたい物語なのかあまりわかりませんでした。13歳の時にわからなかったということ、大人になった今でもわかっていないということかもしれません。

せん：皆様はどう思いますか？この物語が伝えたいことはなんでしょうか？

どうして人々は現在でもこの昔話を愛し、語り継いでいるのでしょうか？もし話の内容さらに詳しく知りたければ下野市国際交流協会のウェブサイトのページ

(URL www.facebook.com/ShimotsukeInternational) に、

テルの物語について詳しく紹介していますので、ぜひご覧ください。テルの物語を読んだ感想もコメントでお寄せいただければ幸いです。

国際交流員イベント
第1回「マシアスのまちあそび」
アドベントカレンダー作り

アドベントカレンダーとは、ドイツ発祥と言われているクリスマスまでの日数を数えるための特別なカレンダーです。国際交流員と一緒にアドベントカレンダーを作って、一味違うクリスマスを迎えてみませんか？子どもはもちろん大人の方も大歓迎です！

■日時 11月29日(土) 午後1時30分～(2時間程度)

■場所 国分寺公民館 第2・3研修室

■定員 20名(年齢制限なし)

■申込期間 11月10日(月)～27日(木)

■参加費

アドベントカレンダー一つにつき 500円

一般 400円

国際交流協会会員

■持ち物 はさみ、のり、クレヨンや色マジック等、お菓子あるいは小さい玩具(※)、持ち帰り用の大きい袋

※お菓子・玩具について

24個以上の小袋に分けられ、それぞれ違う種類である方が良いでしょう。例えば、色々な味のキャンディー、小さいクッキー、チョコレートなど

■問い合わせ先

下野市国際交流協会事務局(市役所生活安全課内)

☎(40)5555

✉ siashimotsuke@gmail.com

道(1)から(3)まで

②へちまの実

③ゆづがおの実

のモチーフは?

2014.11

Shimotsuke